

活動報告書

報告者氏名:別所 邦彦 所属:岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 記録日:26年 2月26日

【対象児(群)の情報】

・学年

小学5年女児

・障害名

知的障がい、脳性まひによる肢体不自由、ADHDの傾向がある

・障害と困難の内容

- ①集中力の持続が難しく、活動の見通しももちにくいため、一つの課題に最後まで取り組むことが難しい。
- ②思いついた言葉や過去の出来事、今後の予定など、場や状況を考えずに話してしまうことがある。また、教師とのかかわりが主で、一方的なかかわりが多く、自分から友達への働き掛けはほとんどない。

【活動目的】

・当初のねらい

- ①iPadを使用した個別課題にて、集中して取り組むことができる時間を増やす。
- ②iPadを媒介として、伝えたい気持ちを育てる。また友達や教師とのかかわりの機会を増やし、やりとりを深める。

・実施期間

平成25年5月～平成26年2月現在

・実施者

別所 邦彦

・実施者と対象児の関係

対象児が在籍する学級の担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

- ①個別学習の場面において、指定された課題のアプリを起動するも、すぐにホームボタンを押してしまったり、「違うのやりたい!」と言ったりして、なかなか一つのアプリに持続して取り組めない。授業中に友達の様子が気になったり、気分がのらないと調子が悪いと机に伏せてしまったりすることがある。
- ②朝の会や帰りの会で一日の振り返りを発表する場面では、「〇〇をしました。」とあまり具体性のない発表をしたり、授業中であっても、取り組んでいる活動とは関係ない話をしたりすることが多い。

・活動の具体的内容

- ①一つのアプリで決められた課題に集中して取り組む。
→「おやこでリズムタップ」「sort the shapes」「ひらがな」
- ②iPadをツールとして自分から友達にかかわる場面を設定する。



家庭での出来事を写真や動画で記録し、友達や教師に具体的に伝える。また学校での出来事を写真や動画を見て家族に話す。

- 「カメラ」「写真」「tango」
「描けるセルボイスレコーダー」



・対象児(群)の事後の変化

①「あ」を通じて

- ・問題提示から正解までの間隔が短く、正誤のフィードバックが分かりやすいアプリに取り組むことで、課題解決までの見通しをもつことができ、一つのアプリに持続して取り組むことができた。
- ・細かい操作や連続した動きが難しいため、アプリに応じて外部入力装置を使用することで、無理なく操作することができた。【図1】



【図1】外部入力装置を使用する

②を通じて

- ・カメラ機能を使い、一人で写真を撮ることで画面を通して友達の様子をよく見る事ができた。また友達に積極的にかかわろうとする姿もあった。【図2】
- ・通話アプリで校内の離れた場所にいる友達に、自分で言葉を考えて話すことができた。また友達の話す内容をよく聞いて、それに答える双方向のやりとりが生まれた。【図3】
- ・生活単元学習の場面で、お店屋さんごっこを行い、アプリでやりとりの手順を示しながら、音声によるフィードバックを行うと、音声を聞いた後で、適切な台詞を言うことができた。【図4】
- ・外部入力装置を使い、二人で一つのiPadを共有して使用することができた。
- ・朝の会(家庭)で昨日(今日)の出来事を話す際に、写真や動画を見ることによって断片的な記憶ではなく、具体的に「いつ、だれと、どこへいったか」を話すようになった。また、友達に写真や動画を見せることで、友達からの注目や関心も高まった。



【図2】カメラで撮影する



【図3】通話アプリで会話



【図4】アプリの活用

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ・一人でも「操作できる」「楽しめる」アプリが増え、iPadを使用することでできることが増えたことが実感できた。また、他の授業でも友達や教師の話をよく聞いている姿や手指操作を伴う活動に意欲的に取り組む姿が増えた。【図5】
- ・iPadを使うことで自信がもてるようになり、自分から友達に呼びかけたり、教師や家族へ伝えようとしたりする姿が増えた。【図6】

・エビデンス(具体的数値など)

- ・導入当初はiPadにさほど関心がなかったが、現在では昼休みになると「歯磨きしたらiPad?」「個別はiPadやる?」や下校時には「今日はiPad持って帰れる?」等と意欲的な発言がよく聞かれた。
- ・他の授業場面における対象児の様子として、課題に対し、「分からない。」できなことを「いや。」という否定的な言葉で表現することが少なくなった。もっと勉強したいという気持ちも現れ、【宿題】というキーワードが定着し、家で保護者と一緒にプリントや手紙を書く等、意欲や自主性が見られた。
- ・個別課題の時間に一つのアプリを起動し、次のアプリに切り替える(途中で飽きてホームボタンを押してしまう)時間が、平均20秒(5月)から平均90秒(12月)と長くなり、好きなアプリに関しては5分以上、一人で取り組むことができた。※1

・その他エピソード(画像などを含めて)

(エピソード記録より)

- ・玩具や遊びの共有が難しく、友達へのかかわり掛けがほとんどなかった対象児が、iPadを介し、「OOくん!」「こっちむいて~」「いまどこにいる?」等、互いにやりとりをする姿が見られた。
- ・朝の会で昨日の出来事を報告するとき、「OOかってきました~!」だったのが、iPadを活用して「きのう、ママと△△ってOOをかってきました~!」と具体的に話すことができた。

(保護者との話や連絡ノートより)

- ・OO(対象児)はiPadが大好きで、登校時の車中でもiPadを手放さず、アプリを楽しんだり、学校や家庭での写真や動画を見ています。学校で録音してもらった今月の歌や学校祭の発表曲を聴きながら一人で歌っています。
- ・今までは連絡ノートで今日の学校での様子を知り、OOに「どうだった?」と聞いても、自分の話したいときに話したいことだけを伝えてくれました。iPadを使って学校の様子を写真や動画で一緒に見ると、細かく出来事を教えてくれるようになりました。

※1 個別学習の場面でその時間に取り組むアプリを3つ決め、課題を終えることができたなら次のアプリに切り替える約束をしていた。自分で切り替えてしまっても、決められた課題は教師と一緒に行うようにした。12月にはほぼ決められた課題を最後までやりきることができてきた。

月	5月	7月	10月	12月
一つのアプリ使用時間	平均20秒	平均30秒	平均60秒	平均90秒



【図5】一人でも「できた」を実感する



【図6】友達とのかかわりを楽しむ

